

## 生徒による授業評価(第1回) 教科ごとの結果および分析

生徒による授業評価(第1回)を、6月26日～7月14日の間に実施しました。

次の質問項目について、かなり当てはまる(4点)、ほぼ当てはまる(3点)、あまり当てはまらない(2点)、ほとんど当てはまらない(1点)として点数化し、平均をグラフとして表示しています。(4点満点)

### 【質問項目】

Q1:毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。

Q2:単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。

Q3:単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある

Q4:授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた

Q5:他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた

Q6:授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた

Q7:授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた

教科	結果	結果の分析	これからの取組
国語		<p>全体としては、どの項目についても、8割以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答し、授業を好意的に受け止めている。一方で、「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり課題の解決方法を考えたりすることができた」とする自己評価の項目がやや低い。</p>	<p>本文読解で終わらずに、本文の主題について自分の考えをまとめたり、他者と協働して課題を見つけ、解決策を考えるといった活動を取り入れていく。また授業で身に付いたこと、できるようになったことを確認する機会を、スモールステップで設けていく。</p>
地理歴史		<p>全体としては、どの項目についても、生徒たちは8割以上が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と授業を好意的に受け止めている。ただその一方で、「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり課題の解決方法を考えたりすることができた」とする自己評価の項目がやや低い。授業内で「自分の考えをまとめたり解決方法について考える場面」や「他者の考えを知り自らの考えを広げ深める機会」が設けられているが、自分の考えに自信がなくなためう部分があると考えられる。</p>	<p>授業の中で、スモールステップで思考を深めさせたり、論拠をもって自分の考えを整理するといったプロセスをより多く体験できるように授業を工夫し、論理的に思考することへの自信を持たせていきたい。</p>
公民		<p>全体としては、およそ8割以上が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」を選んでおり、生徒たちはおおむね授業に好意的である。特に、「自分の考えをまとめたり解決方法について考える」「他者の考えを知り、自らの考えを深め広げる」点については評価が高かった。しかしながら、単元や毎時のねらいや振り返りに関する評価が相対的に低めである。</p>	<p>単元や毎時のねらいや振り返りについて、授業者は生徒に示しているが、生徒は明確に捉えられていないようである。生徒たちに対してメリハリをつけて提示していくことが必要と考えられる。</p> <p>また、毎時間実施しているGoogleフォームによる意見共有が効果的だったと考えられ、今後も継続するとともに、さらにより良い意見共有の手段を探していきたい。</p>

教科	結果	結果の分析	これからの取組
数学		<p>8割以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」を選んでおり、全体的に前向きに生徒は取り組んでいると分析することができる。特に、Q4「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」生徒が比較的に多いことが分かる。そういった生徒は、数学に対してのモチベーションを高めることができたと考える。今後も勉強に対する意欲を高め、自宅学習をコツコツと継続的にできるよう、生徒に指導していきたい。</p>	<p>タブレット等のICT導入を契機として、より生徒にとって効果的な学習方法を検討し、効率的に授業に取り入れていくようにする。</p>
理科		<p>いずれの項目も「かなり当てはまる」または「ほぼ当てはまる」が8割を超えており、高い評価であった。特に、Q1の授業のねらいについては、「振り返りシート」などを活用した取組みにより、生徒が授業のねらいを理解したのと思う。</p>	<p>「振り返りシート」を活用するとともに、タブレット等のICT導入を契機として、より効果的・効率的にフィードバックを得られる手法を継続的に検討していく。</p>
保健体育		<p>どの項目についても、8割以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答している。しかし、「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を考えるなど、自らの考えを広げ深めることができた」という項目がやや低い。保健においては、他者の考えを聞く活動があるが、体育については、そういった機会が限定的だったという点が、この結果に影響していると考えられる。</p>	<p>特に体育において、ペアやチームで活動する際に、活動内容の工夫や試合に向けた作戦を考える時間を設けるなど、生徒同士で意見を出し合う時間を増やし、他者の考えを踏まえて、自らの考えを広げ深めることができるようにする。</p>
芸術		<p>ほぼ8割の生徒が授業内容を理解できているようだ。芸術科目は得意、不得意があるので、不得意な生徒への配慮をしていきたい。また、中学校までの内容が理解できていないことが多いと考えるので、苦手意識をなくすためにも丁寧に指導していきたい。</p>	<p>授業の流れを丁寧に説明し、生徒が分からないところを確認し、適宜説明を加えていく。また、常に生徒への声かけを心がけ、授業に前向きに取り組めるようにする。様々な学習内容がある教科なので、得意なものを見つけ出せるようにしたい。</p>

教科	結果	結果の分析	これからの取組
外国語		<p>全体としては、どの項目についても生徒の8割以上が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と授業を好意的に受け止めている。その一方で、「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた」とする自己評価の項目がやや低い。授業では練習問題等を解く時間などがあるものの、自分の考えを表現する機会が少ないことが原因と考える。</p>	<p>授業で、指導する学習内容をより精選して、自身の意見を発信するための活動を増やすなど、授業の内容・活動を工夫し、討論や対話を通して英語で意見を交換し、自身の考えを深める力を身に付けさせていきたい</p>
家庭		<p>どの項目についても、8割以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答している。しかし、「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」という項目がやや低い。</p>	<p>授業の内容を実生活と結び付けて考えられるように促す。そのためには、授業で身に付いたこと、できるようになったことを單元ごとに確認したり、他者と意見を共有する時間を増やすことで自らの考えを広げ深めることができるようにしたい。</p>
情報		<p>8割以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」を選んでおり、生徒は前向きに取り組んでいると考えられる。様々なツールを使いこなすには、ある程度のタイピング力や情報活用能力が求められるため、「あまり当てはまらない」、「ほとんど当てはまらない」に該当する生徒に対して、より丁寧に説明していく必要がある。</p>	<p>タイピングを毎授業実施するとともに、粘り強く情報活用能力を育成する必要があると考える。Htmlやpythonを活用し、タイピングの力を育成するとともに、各種言語の理解も深めていきたい。</p>